

## エゾシカ密度操作実験予備調査の内容案(～2007/03/30)

### 1. 知床岬及びルサ-相泊地区における植生モニタリング指標の検討

越冬地採食圧をモニターする調査区に関して、岬地区はほぼ質量とも揃っているが、ルサ-相泊地区は設定がない。本調査では後者での調査区設定を検討する。また、非越冬期の採食圧に関しては、最もその影響が懸念される海岸沿いの在来植物群落を対象とするのが適当である。ここでは過去の調査結果と WG 委員の意見を元に、斜里側・羅臼側の海岸線に調査区候補地を選定する。なお、モニタリング結果の評価に当たり判断基準となる指標の設定は、今後調査内容を詰めていく過程で指標種や数値目標を具体化する。

### 2. 知床岬におけるエゾシカ個体群動態の把握

#### 2-1. 越冬個体数把握(2007年2-3月)

航空機で越冬数調査。過去3年の調査月日は2004/2/9、2005/2/8、2006/3/16。

#### 2-2. 自然死亡個体分析(含む齢査定)(2007年1-3月)

2006年5月に回収した標本の齢査定作業(全80体中51体が0才で査定不要、12体成獣標本なし、5体齢不明標本なし、12体成獣査定可能)。

#### 2-3. 季節移動調査(～2007年3月)

すでに夏期の地上、航空調査を終了。2-1の越冬数調査と並行して越冬期調査を実施予定。

### 3. ルサ-相泊地区におけるエゾシカ個体群動態把握のための手法の検討(2007年2-3月)

2006年12月後半より同地区の地上センサスを開始。一番観察数が多い天候・時間帯を特定し(斜里側と同じならば晴天無風の午後1～3時頃)、その条件で複数回観察、2月中に目撃数を得る。同時期に、できれば複数箇所(1平方キロ程度、1ヶ所はルサ下流左岸)を重点地域(捕獲地域)として追い出しによる全数調査を行い、対応区間の目撃数と合わせ、Gasaway et al. (1986)の手法か回帰式で補正係数を求め、越冬数推定を行う。

この後、下記4.の密度調整手法の検討のため、重点地域では追い出し等の攪乱を複数回繰り返す予定であるが、その結果、シカが重点地域を避ける、人を避けるなどの行動を学習した場合、越冬数推定時の補正係数を修正する必要がある。道路からの越冬目撃数に2～3月の間大きな季節変化がないことを確認する意味でも、地上センサスから追い出し、越冬数推定までの一連の行程を密度調整手法検討調査の後にも1セット実施する。

#### 4. 知床岬及びルサ-相泊地区におけるエゾシカ密度調整手法の検討(2006年10月?2007年2-3月)

岬地区：2月から3月の期間に、羅臼側から岬への航行可能日、雇用可能船舶の定員、積載量などを調査し、捕獲頭数(100、200、300など)に応じた実施期間、必要人員、必要資材、予算などに対応させ、実現可能な捕獲手法(銃による捕獲、生体捕獲(罨)、薬、他)を検討する。またそれぞれの捕獲手法の実施の詳細を計画する。現地調査は検討中。

ルサ-相泊地区：上記3.の追い出し調査1回目に合わせ、勢子の人数、シカの追い払い方向、追い払われたシカの逃走経路と集団行動、餌付けと追い払いの繰り返しに対する反応、立木に張り渡したロープなどによる逃走経路誘導の可能性などを調査・検討する。

また、岬地区同様捕獲頭数に合わせた実現可能な計画を試算する。